

## 7 その他全般的事項

<グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

グローバル・コミュニケーション学部では学部開設と同時にグローバル・コミュニケーション学部FD委員会規程を制定しFD委員会を立ち上げた。本学部は教育課程に「Study Abroad」を設置するなど、学部設置の趣旨に、「実践的で高度な外国語運用能力の教育を通して、グローバル化した社会に相応しいコミュニケーション能力を陶冶する」という教育的使命を掲げ、もって、社会が求める人材育成のニーズに応じていくこととしている。この教育的使命に鑑み、本学部のFD委員は、教務主任2名、教務[国際]主任1名、及び、各コースに所属する教員それぞれ1名により構成しFD委員会の円滑な運営を担保している。なお、同志社大学では、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として、学習支援・教育開発センターを設置している。さらに、学習支援・教育開発センターが設置しているFD支援部会、教育効果向上部会では、カリキュラム等の全学的・制度的な見直しや、教員の教育内容・授業方法の改善について検討を行っており、両部会には本学部の専任教員が委員として参加し、大学全体の検討課題をFD委員会や主任会を通じて学部フィードバックしていく体制となっている。

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成24年度のFD委員会は、委員全員出席の上、計2回開催した（内1回はe-mailによる審議）。なお、委員会での報告・審議事項については、41回開催された主任会、並びに、21回開催された教授会において、遺漏なく報告し、必要に応じて審議することで、学部全教員への周知徹底を図っている。

##### c 委員会の審議事項等

委員会は、「グローバル・コミュニケーション学部FD委員会規程」第3条に則り、次に掲げる各号の業務を行うことになっている。(1)FD活動の基本方針の策定に関する事項、(2)教員の教授方法の開発及び改善に関する事項、(3)成績評価基準の明示を含む、シラバスの整備に関する事項、(4)アセスメント（学生による授業評価、教育活動実態調査等）についての企画、立案、実施、結果の分析等及びそのフィードバックに関する事項、(5)FDに係る研修会及び講習会の開催に関する事項、(6)FD活動に関する情報収集及び提供、(7)その他FDに関する事項で委員会が必要と認めた事項。なお、全学組織である教育開発センターFD支援部会における検討内容を主任会、教授会に円滑に報告し、必要に応じて随時、審議する役割を果たす。開設初年度に引き続き平成24年度は、このうち、(4)、(5)について、重点的に検討し、その実施に至っている。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- 1) 学部新入生へのアンケート調査
- 2) FD研修会
- 3) 教員活動実績調査
- 4) キャンパスライフに関するアンケート調査

## b 実施方法

・平成24年度の実施方法は次のとおりである。

- 1) 学部開設初年度に引き続き、本学部学生の授業、Study Abroad、就職等に対する要望・傾向等を把握するため、各コースごとにアンケートを作成し、初回授業時に実施した。結果集約後、主任会で確認の上、各コースごとに教員が情報を共有した。
- 2) FD委員会で審議の上、平成24年度は「日・英のリテラシーとは何か―書き方・語り方に見る思考表現法比較からプロジェクト型教育への理解」と題した研修会を、専門家である名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教授を招聘して実施した。
- 3) FD委員会で全専任教員に対する教育活動、研究活動、社会貢献についての調査項目を選定し、主任会、教授会の了承後実施した。調査結果は本学部の教育活動等の改善につなげるとともに、自己点検・評価活動などにも活用するものとし、毎年度実施する。
- 4) FD委員会において、学習支援・教育開発センターが実施する「キャンパスライフに関するアンケート調査」を本学部も実施することを前提に、本学部英語コース2年次生がStudy Abroadで海外渡航する特殊性に鑑み、個別の実施方法を検討し、主任会、教授会の了承の上、適切に実施した。

## c 開催状況（教員の参加状況含む）

・平成24年度の活動は次のとおりである。

- 1) 初回授業時に実施した。平成25年度も同様に実施した。
- 2) 5月8日16時～18時に1回開催し、25名の教員が参加した。平成25年度以降も、本学部の授業運営上の特色である「言語教育」、「Study Abroad」、「異文化理解」等の内容について計画的に実施していく。
- 3) 4月に全教員（29名）に対して実施し、全教員から提出された。
- 4) 3月に実施した。

## d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・平成24年度の取組状況は次のとおりである。

- 1) および4) 本学部生を対象とした「学部新生へのアンケート」および「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、授業、Study Abroad、就職等に対する要望・傾向等を把握し、各コース教員の情報共有と授業改善に役立っている。
- 2) FD研修会後、本学部の各コースに設置されているライティング系の科目の授業運営の向上に寄与した。
- 3) 専任教員に提出を義務付けた「教員活動実績調査」は、FD委員会において結果を分析した上で、平成24年度に全学的に実施された自己点検・評価報告書の作成にも活用した。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

・授業評価アンケート調査は、全学的な取組みとも連携を保ちつつ、全クラスについて教育支援機構が定めた共通フォーマットにより、WEBを利用して、各学期の授業終了時に全学一斉に実施した。

### b 教員や学生への公開状況、方法等

・アンケートの集計結果は、各担当者に返却し各担当者の授業改善に役立てていただくとともに、各学部・研究科・センター別集計と大学全体の集計結果を本学ホームページ上で公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

##### 1. 入学者選抜の概要

グローバル・コミュニケーション学部は、入学許諾の指針となるアドミッション・ポリシーに則り、本学の教育理念の1つである国際主義を更に推進し、グローバル社会の諸分野でfacilitator、negotiator、administratorとして活躍を目指す人材を広く受け入れることになっている。当該の志向性を有する幅広い入学者を確保するために、平成25年度、英語コース、中国語コースでは、①一般選抜入学試験のほかに、②公募制推薦選抜入学試験、③指定校推薦入学試験、④法人内諸学校推薦入学試験を行ない、日本語コースでは、留学生を対象に、①外国人留学生入学試験、②公募制推薦選抜入学試験、③指定校推薦入学試験、④留学生別科生推薦入学試験、⑤第3年次転入学・編入学試験を実施した。一般選抜入学試験は合格者255名(英語コース164名、中国語コース91名)、公募制推薦選抜入学試験は合格者31名(英語コース20名、中国語コース11名)、指定校制推薦入学試験は合格者12名(英語コース8名、中国語コース4名)、法人内諸学校推薦入学試験は合格者19名(英語コース15名、中国語コース4名)であった。日本語コースは、外国人留学生入学試験は合格者20名、公募制推薦選抜入学試験は合格者2名、指定校制推薦入学試験は合格者1名、第3年次転入学・編入学試験は合格者1名、留学生別科生推薦入学試験は合格者なしであった。英語コース、中国語コースでは、入学者にStudy Abroadを義務付けていることに鑑みれば、適正な数の学生を確保することができた。日本語コースでは、アドミッション・ポリシーを遵守し一定の日本語能力を有する学生の選抜を徹底しているため、平成24年度の入学者の結果を踏まえ、積極的な広報活動を展開し入学者の確保に努めたが、引き続き、入学者がコース定員に達しなかった。なお、本件を踏まえ、平成26年度から外国人留学生入学試験海外指定校の充実などについて学内所管部課と調整を開始している。

##### 2. Study Abroadの実施

英語コース、中国語コースでは、1年間のStudy Abroadを必修として課すことをカリキュラム・ポリシーに明記し、教育課程に組み込んでいる。平成24年度は、英語コース74名を5ヶ国13大学に派遣し、全員が無事帰国の上、本学学則に則り、派遣先で取得した単位を認定した。中国語コース41名は平成24年の秋学期から出発し、現在、中国語圏3大学にて就学しているところである。なお、平成24年度Study Abroad派遣予定の英語コース89名、中国語コース41名については、平成23年度同様のプロセスを経て、英語コースは全員出発し、中国語コースは秋学期出発に向けて遺漏なくプロセスが進捗している。

##### 3. 総括

以上の1、2から、開設初年度から一定数の学生を確保でき、さらに、本学部の教育課程上重要な位置を占めているStudy Abroadについても順調に進捗している。さらに、「2. 授業科目の概要」からも明らかのように、開設初年度の科目の開講状況は一部の科目においてやむを得ない事情により担当者変更は生じたものの設置計画通り全科目の開講ができた。これらに鑑み、本学部の設置の趣旨・目的は、適正に達成していると判断できる。

#### ② 自己点検・評価報告書

自己点検・自己評価委員会を設置し、単年度ごとの教育・研究活動を点検・評価する。

##### a 公表(予定)時期

・平成24年度の教育研究活動の自己点検・評価結果は、平成25年度夏頃までにまとめて公表する。

##### b 公表方法

・学部自己点検・評価報告書を大学のホームページ上に公表する。

#### ③ 認証評価を受ける計画

・平成24年度に大学全体として実施した自己点検・評価について、平成25年度に(財)大学基準協会の認証評価を受ける。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。